

第3回 令和4年度 「SAGAコラボレーション・スクール」  
学校運営協議会（学校魅力化委員会） 議事録

1 日 時 令和4年9月20日（火）15時～16時30分

2 場 所 本校応接室

3 出席者 〔委員〕川島雄輔、松田 毅、早川 加恵、  
〔オブザーバー〕細國 真紀（県教委）  
〔学校〕下村昌弘、藤田和康、宮田健二、山口崇、池田憲一、  
松尾洋明、重松晃三郎

4 主な内容

(1) 学校長挨拶

- ・学校では文化祭が終わり、これから本格的に探究活動をしていくことになる。
- ・3年生は入試に向けて総合型、学校型推薦の出願が始まっている。
- ・これから中学生へのアピールを活発化していかなければならない時期にもなっている。

(2) 令和4年度学校評価 中間評価

- ・様々なボランティア活動をとおして、地域社会に貢献し、地域に信頼され選ばれる学校作りを推進できている。
- ・HPの更新も8月末までに70回を超えている。9月からは「西高日記」を始めており、毎日更新している。

(3) 1学期の活動実績（取組状況）と高校魅力化評価システム診断結果について

- ➡ 今年7月に高校1年生にアンケートを実施したが、今やってみたい取組として職業体験をしたいという声が多かった。中学時代にコロナで職業体験ができていないからではないか。働く意義を、身近な大人や身近に感じる人から話を聞く機会が必要。
- ➡ 昨年のボランティアの参加回数が450回で、ボランティア体験一人を年会1回くらいしているという結果。今年は8月の末で600回をすでに超えているので、昨年よりも多くの生徒が参加している。体験にとどまらず「学び」の形にしてやる必要がある。

(4) 今後の西高の在り方に関する協議（熟議）

- ➡ 「この学校をどんな基準で選んだか」という問いに対して、西高の特徴として「卒業後の進路を考えて」本校を選んだ生徒が多い。「家族が卒業生」である、「先輩の影響」「体験入学」など身近な人との接点を持つところが多い。一方で、「将来の夢がない」、「進路が決まっていない」という生徒が多いことは、逆に、西高は選択肢が多いということ。そこが魅力につながっているのでは。
- ➡ ボランティアを通して振り返りをするのが大切。しかし、振り返りシートも書けば終わりではなく、指導者のコメントや問いかけで考えを深めていくもの。リフレーミングを心掛け、変化を見つけてあげることが大事。
- ➡ 成功事例があれば、生徒も何のためにやっているのかわかってくれるのではないか。ボランティアで活動したことが入試にどう生かされたのか等。
- ➡ 人に出会う、人と接点をもつことが大事なのではないか。そのような機会を教育活動で取り入れていくことも必要な視点である。